i Magazine 2008 No.5 2008年1月29日発行

iBIアライアンス

「緊密な協業」と「市場拡大」が目標

「ERP」開発まで射程に

2007年12月某日、東京・箱崎の日本IBM箱崎事業所にSystem iベンダー8社の経営者が集まった。顔ぶれは、三和コムテックの柿澤晋一郎 代表取締役社長、アイエステクノポートの金澤廣志 代表取締役、ネスコの小国忠士 取締役 営業推進本部長、オークシステムの見形次郎 代表取締役、アルスの児玉民行 代表取締役、ケイ・アイ・エス情報科学研究所の佐野元昭 代表取締役社長、共栄情報システムの中山晴雄 代表取締役、ユーエスエスの與良博和 代表取締役社長という、System iのISVとして知らない人のいない、錚々たるメンバーである。会合の目的は、2008年1月に発足予定の「iBIアライアンス」(i Business Initiative Alliance)の設立発表に向けた最終調整である。

「…ということで、目的の第1項は、“IBMのSystem iビジネスの拡大”でよろしいですね」。代表幹事に内定している柿澤氏の声に、一同が深くうなずく。「第2項は、“緊密な協業連携体制の構築と協業ビジネスの創出・実践”、第3項は、“先進ソリューションの共同開発に向けて”、でいきます」

先細りの危機感

iBIアライアンスの発端は、2年前の「竹林会」という懇話会にある。そこで、System i市場のさまざま話題が俎上に上り、「ああすればいい、こうしたほうがよい」という話へ発展し、2年の議論を通してiBIアライアンスの結成へつながった。 この背景には「System i市場に対する強い危機感と問題意識がある」とメンバーは口をそろえる。このままでは先細りになるという危機感、System iのよさ・特質に対するユーザーとベンダー双方の認識の低下、ベンダーに対する日本IBMの支援体制の変化、販売方法に関する悩み・戸惑い・問題意識、そして、これまでは日本IBMに委ねることの多かった市場拡大の取り組みをベンダーサイドからも推進し貢献したい。細かく挙げていけば、現在のSystem i市場の問題・課題がすべて列記されるほど熱い議論が交わされたという。しかし、さまざまな思い・意見は交錯したものの、「限られた市場のパイをベンダー同士が食い合い奪い合っていたら、発展は覚束ない。市場拡大につながる取り組みが絶対に不可欠」という認識では最初から一致していた。

メンバーたちは口にしないが、この認識には根深い複雑な問題が絡み合っている、と本誌では考える。1つは、System i以外のユーザーにSystem iの優位点やよさ、特質が伝わっていかないという市場全体のマーケティングと製品戦略に関する問題。もう1つは、非System iユーザーを対象とする新規開拓が思うように進展しないため既存ユーザーへの攻勢に拍車がかかり、無理な値引きや中古機の押し込み

柿澤晋一郎
三和コムテック
代表取締役社長

金澤廣志
アイエステクノポート
代表取締役

児玉民行
アルス
代表取締役

小国忠士
ネスコ
取締役
営業推進本部長

見形次郎
オークシステム
代表取締役

中山晴雄
共栄情報システム
代表取締役

佐野元昭
ケイ・アイ・エス情報
科学研究所
代表取締役社長

與良博和
ユーエスエス
代表取締役社長

といった、市場全体でみれば健全とはいえない動きが顕著になってきたこと、など。このほかにもさまざまな問題が見え隠れするが、それらが相互に絡み合い、あるいは1つの問題が別の問題の要因となるなどして、総体として市場に閉塞感や停滞感が生まれている。それを突破する方策を確立し市場拡大につながる取り組みを今スタートさせなければ、生き残りはおろか市場の存立自体も危うい、というのが認識の根底にあるのだ。メンバー8社はいずれも古参のSystem iベンダーである。ミドルウェア、インフラ、基幹システム、業務システムなどの分野でそれぞれ地歩を築き、市場の発展にもさまざま貢献してきた。

新しいスタイルにこだわる

最大の目標は、System iビジネスを拡大させること、である。「新規マーケットを開拓し、非System iのユーザーにSystem iのよさを理解してもらい、新しいソリューションを提示してSystem iユーザーとなってもらうのが最大の目標」と言い切る。その方法論は、「会員会社の得意分野、製品および技術を連携・集約させることによって緊密な協業連携体制を築き、協業ビジネスを創出・実践する」というものだが、ここでメンバーがこだわり、一致したのが「新しいスタイルで」という点だ。ベンダー間の協業ではこれまで、一方または双方のパッケージ／製品を担ぎ合い、営業・マーケティング面で協力し合うという展開が多かった。そういうレベルだけではなく、例えば、メンバー各社の製品やソリューションで構成されるシステムが1つの製品として見えるような、製品／ソリューションを連携させるための標準インターフェースの開発を共同で行う。各社の技術ノウハウを結集して、スタンダードの開発にまで踏み込む。これは新しいスタイルだ。「iBIスタンダードと呼べる標準技術に基づいて各社が製品開発を行えば、単体製品として利用できるのはもちろんのこと、それに加えて、iBIの協業ソリューションとして構築するシステムの一部のモジュールとしても活用することが可能になる」と技術協業の意義と広がり、そのインパクトを説明する。

iBI ERPの開発も射程に

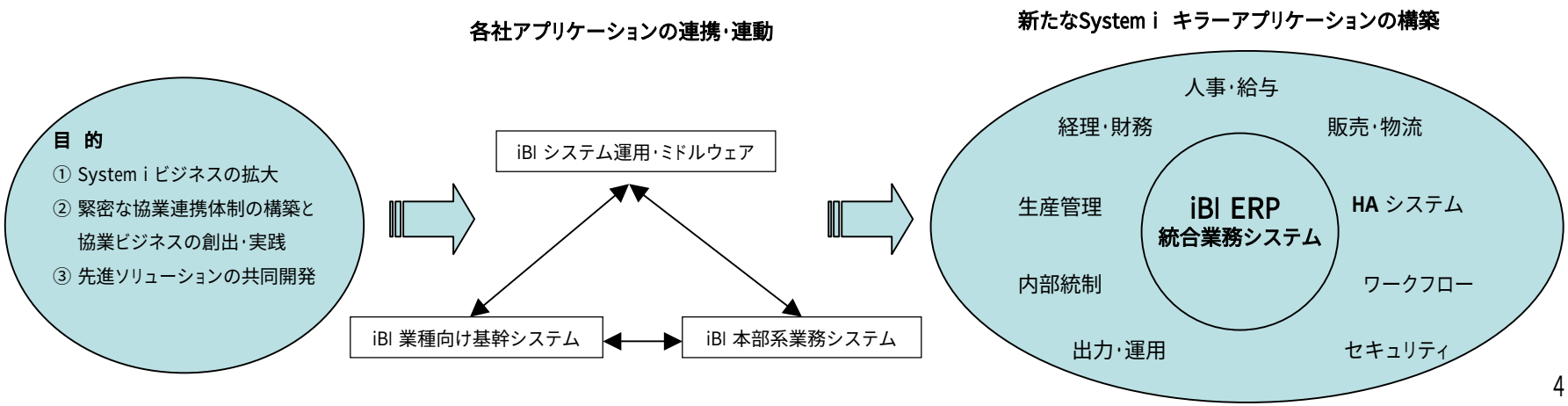
もう1つ、従来のレベルを超える協業として構想するのは、各社が持つビジネスノウハウの開示・提供・利用である。「iBIアライアンスのメンバーは過去20年間、それぞれの特色を発揮してビジネスを展開し、少なくない数の提携・協業も行ってきました。しかし内実を言えば、その持てるリソースやノウハウを開示して、本気で共有し合うということはやってきていない。iBIアライアンスはそれに挑戦し、マッシュアップというか、協業によって新しいものを生み出していく。そこが新しいスタイルです」と言う。こうした深い緊密な協業の先にメンバーが描くのは、キラーソリューションの開発である。「System i分野に魅力的なソリューションが少ないというのは事実でしょう。それがSystem iの苦戦の原因ともなっている。ならば、iBIとしてキラーソリューションの開発に取り組んでみたい。メンバー各社は、インフラからミドルウェア、アプリケーションまで、そして基幹業務から業種特化のさまざまなシステムまで豊富な経験と実績、得意分野を持っています。これらを結集すれば、今までにない、本物のERPシステムを作っていけます。それがSystem iのキラーソリューションになると考えています」

iBIアライアンスでは、開発したソリューションをメンバー企業だけで独占する考えはまったく持っていない、という。「IBMやBP、ベンダーが非System iのユーザーに営業した時に、武器となる強力なソリューションを提供していくのが使命の1つ」というスタンスである。

メンバーから「非System iユーザーの中には体力のない企業もいる。そうしたユーザーには、iBIのソリューションをASPやSaaSの形で提供していきたい。それもSystem iユーザーの拡大であり、その安定感や安心感を知ってもらうことで、市場の拡大につながると思う」という声が上がる。他のメンバーが「わが意を得たり」という風に、賛同の言葉を返す。iBIアライアンスは「熱い」。危機感の上にある「夢」を形にしようと動き始めるグループでもある。2008年の注目株である。

iBIアライアンスの組織体制は以下の通り。

- 代表幹事
  柿澤晋一郎（三和コムテック）
- 副代表幹事　技術／基盤部会代表
  金澤廣志（アイエステクノポート）
- 副代表幹事　協業部会 代表
  小国忠士（ネスコ）
- 副代表幹事　事務局長
  見形次郎（オークシステム）
- その他のメンバーは幹事。

図表　iBIアライアンスの目的と目標

メンバー企業	創業年	主な製品･取扱商品	得意分野･業務
ネスコ http://www.nesco.co.jp/	1975年	SuperStream/400、 SuperStream/Light、レディオゲート	経理･財務、人事･給与、物流･在庫、販売管理、先物取引、海外貿易
三和コムテック http://www.sct.co.jp/	1991年	MIMIX、eLECTRAN、Security+++、 iSecurity、VMC	e-ビジネス、パッケージソフトの開発･販売、パッケージソフトの輸入･販売、ITコンサルティング、導入･運用サポート、IT教育
アイエステクノポート http://www.istechnoport.co.jp/	1990年	UT/400シリーズ、SD/Managerシリーズ、SS/Tool-II	System i向けツールの開発･販売、アプリケーションソフトの開発、情報システムのコンサルティング、運用･保守
アルス http://www.arsweb.co.jp/	1988年	Open人事、Open給与、iSeries Site人事C/S版、同給与C/S版、同ワークフロー	経理･財務、人事･給与、生産管理
ケイ･アイ･エス情報科学研究所 http://www.kisweb.co.jp/	1965年	iSeries Site給与、School Pack	経理･財務、人事･給与、流通業、販売管理、サービス、教育、ERP
共栄情報システム http://www.kiscl.co.jp/	1985年	KISメイト、newWH/400、 newCool/400、トランク/400	物流･在庫、販売管理、経理･財務、証券･株式管理
オークシステム http://www.oac.co.jp/	1983年	OACFaxMagic、OACFaxMagic/400、 スクールマン学校会計	経理･財務、人事･給与、物流･在庫、生産管理、教育、ERP
ユーエスエス http://www.uss.co.jp/	1975年	AMDPro、Fresh、Fresh2000、 e-image、eLECTRAN	経理･財務、人事･給与、アパレル、流通サービス、金融･銀行、ERP